

枕崎の未来をつくる。

前田市政、3期目のスタート

任期満了に伴う枕崎市長選挙が1月18日に執行され、前田祝成氏が再選しました。

枕崎市民の皆様へ

枕崎市長 前田祝成

これまで2期8年の市民の皆様のお支え、誠にありがとうございました。

これからもよろしくお願いいたします。

目指す3つの枕崎

私はまちの未来をつくるということを「まちを『デザインする』こと」と考えています。枕崎の未来をつくるということは、枕崎をデザインすること、この『デザイン』という言葉ですが、『デザイン』の定義を私はこう考えています。『デザイン』とは「生活者（市民）が魅力を感じる未来像を構想し形にする方法論」である。このことは、市役所入庁1年目から2、3年目の若い職員とも「若手職員との語

る会」を通じて共有しています。

さきの市長選挙で私は、

①子どもが輝き、大人も輝く枕崎 子どもが生き生きと暮らし、大人が子育てに生きがいを持てる枕崎をつくりたい

②若者が夢と希望を叶える枕崎 これから子どもを産み育てる若い世代が明るい将来設計・展望を描ける枕崎をつくりたい

③高齢者が安心して暮らす枕崎 生活支援サービスの充実をはかり、お年寄りが笑顔で健康に暮らせる枕崎をつくりたい

火之神地区養豚場跡地

私（市長）1・2期目の仕事の中の大きなトピックのひとつが火之神地区の養豚場跡地の整備事業でした。本市にとって貴重な財産である火之神エリアに養豚場跡地が残っていました。その跡地を市で取得、整備することができて火之神エリアの環境・景観が格段に良くなりました。事業を進めるにあたっては担当職員が精力的に仕事を進めてくれました。その努力に心か

ら敬意を表します。

整備した養豚場跡地を含むエリア、枕崎漁港から火之神公園までの海岸線は本市にとっての宝物です。新年度は、このエリアを今後どうデザインしていくかの基本計画策定に取り組みます。その中心に市が取得した養豚場跡地があります。この1月には薩摩酒造株式会社火の神蒸溜所にウイスキーづくりの象徴ともいえるビクターセンターがオープンしました。当該企業だ

けではなく、この地域にある民間事業者の皆さんの積極的な投資により、このエリアの魅力が向上しているのを感じます。新年度策定の基本計画は、長期的な計画になると思います。が、本市の宝物であるこの火之神エリアの5年先、10年先を見据えた計画をしっかりとつくりたいと思います。

共に、前へ。

学校の再編、火之神エリアの開発、これからの枕崎を形作っていく大きな要素のひとつになります。しかし、それはほんの一部でもあります。やはり、市民の暮らし、冒頭にお示した目指す3つの枕崎の姿、その実現が基本となります。その未来像を構想し形にしていくための計画、戦略が今年度出来上がる「第7次枕崎市総合振興計画」であり「第3期枕崎市地方創生総合戦略」となります。

この原稿を執筆しているのは1月23日、この日、衆議院が解散されました。現政権は今回の選挙を『自分たちで未来をつくる選挙』と名付けました。その中で「挑戦しない国に未来はない。守りだけの政治に希望は生まれない。誰かがつくってくれるものでもない。私たち自身が決断し、行動し、つくり上げていくものだ」と首相は述べています。今後の我が国の形がどうなるかは現時点ではわかりませんが、本市も「枕崎の未来をつくる」ということに挑戦します。この令和8年はその大切な年になります。

皆さんと共に、前へ。枕崎市をすすめていきましょう。

市内にある大切な10校の公教育の場がこれからどうあるべきか、しっかりと考えて正しい意思決定を行っていきます。

枕崎の未来をつくる、12の取り組み

1. 産業競争力のさらなる強化
2. 地域経済・商店等活性化
3. 物価高対策
4. 子育て支援・少子化対策
5. 新たな教育環境の整備
6. 防災減災国土強靱化
7. 地域公共交通の整備
8. 高齢者・障がい者福祉の充実
9. 人口減対策
10. 自治公民館活動支援
11. 環境整備
12. 積極的な公共事業